日本文化Ⅱ－Ⅱ

科目ナンバリング　JLT-104
【Ⅲ】　選択　2単位

細田　明宏

1. 授業の概要（ねらい）

日本では多くの芸能が人々に親しまれてきました。近世期に成立した歌舞伎と人形浄瑠璃（文楽）はその代表的なものです。

歌舞伎は約400年前に流行した、少女たちによる「かぶき踊り」を源流とし、その後、時代に合わせてさまざまに姿を変えていきました。人形浄瑠璃（文楽）は、語り物芸能である浄瑠璃が約400年前に人形あやつりと結びつくことで舞台芸能化したもので、近松門左衛門をはじめとする作者たちにより多くのすぐれた作品が生みだされました。この講義では、歌舞伎や浄瑠璃の歴史について学びます。

2. 授業の到達目標

近世期に成立した日本の舞台芸能について理解を深めること、そしてその特色を他人に説明できること。

3. 成績評価の方法および基準

期末試験（60%）、小テスト・レポート（20%）、平常点（20%）を合わせて評価します。なお期末試験に代えてレポートを課す場合もあります。

4. 教科書・参考文献

5. 準備学修の内容

①事前に授業内容の概要を配布（PDFファイル）するので、それを読んでおくこと。なおその概要は、プリントアウトまたは要点をノートに書くなどして授業に臨むこと。②独立行政法人日本芸術文化振興会が運営するウェブサイトである文化デジタルライブラリー（http://www2.ntj.jac.go.jp/dglib/）の「舞台芸術教材で学ぶ」のうち、関連するページを見ておくこと。

6. その他履修上の注意事項

7. 授業内容

【第1回】　ガイダンス～歌舞伎と人形浄瑠璃
【第2回】　かぶき踊り
【第3回】　遊女歌舞伎・若衆歌舞伎
【第4回】　野郎歌舞伎
【第5回】　元禄歌舞伎：和事
【第6回】　元禄歌舞伎：荒事
【第7回】　浄瑠璃の成り立ち
【第8回】　人形浄瑠璃の成立
【第9回】　古浄瑠璃から義太夫節へ
【第10回】　近松門左衛門
【第11回】　人形浄瑠璃：技法の発展
【第12回】　人形浄瑠璃と歌舞伎の交流
【第13回】　作品の鑑賞1『仮名手本忠臣蔵』五・六段目
【第14回】　作品の鑑賞2『仮名手本忠臣蔵』六段目
【第15回】　まとめ（期末試験）